

# ビヨンドトゥモロー リーダーシップアカデミー スプリングプログラム2012 報告書



2012年3月6日～3月9日

開催場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター  
主催: 一般財団法人 教育支援グローバル基金  
支援団体: 公益財団法人 東日本大震災復興支援財団

震災から一年。被災地の高校生が刻む『自分との約束』

みんなで  
がんばろう  
日本 ●

BEYOND  
Tomorrow



震災から1年



芽生えた使命



輝く未来

大変なことがあったから、今の自分がある。

そう思える日がくるまで、歩き続けます。



津波で、命を失った人たちの分まで、精一杯に  
生きることが生き残った私たちの使命です。



「ビヨンドトゥモロー／BEYOND Tomorrow」は、  
東日本大震災により被災した若者のリーダーシップ教育支援事業です

## ビヨントゥモロー リーダーシップアカデミー スプリングプログラム2012 概要

### 主催

一般財団法人 教育支援グローバル基金

### 協力

公益財団法人 東日本大震災復興支援財団

### 日時

2012年3月6日(火)～9日(金)

### 参加者

東日本大震災により被災し、困難な状況を経験しながらも、グローバルな視野を持ち国内外で活躍する志をもって2012年度に大学進学・高校留学をする学生で、ビヨントゥモローのプログラム(スカラーシップ・プログラム、高校留学プログラム、ジュニア・スカラーシップ・プログラム)に選抜された高校生25名。

### 趣旨

本プログラムは、一年間の包括的なリーダーシップ・プログラムである、「ビヨントゥモロー リーダシップアカデミー」2012年の最初のプログラムです。震災から一年を経た今、参加学生が未来に向かって自分が目指すべきビジョンを描き、これからの学生生活において何を達成すべきかを具体化する事を目的としました。



## 目次

---

1.	スペシャルメッセージ	05
2.	アドバイザーメッセージ	06
3.	プログラム概要	07
	Ⅰ. 4つのアプローチ	07
	Ⅱ. スケジュール	08
	Ⅲ. 参加学生紹介	09
4.	スプリングプログラムハイライト	12
	Ⅰ. スプリングフォーラム	12
	Ⅱ. ディスカッション	15
	Ⅲ. リーダーへのインタビュー	17
	Ⅳ. 企業プログラム	18
	Ⅴ. 自分との約束	20
	Ⅵ. メンター一覧	25
5.	運営チーム	28
6.	協力団体	29
7.	メディア掲載 映像掲載	30
8.	BEYOND Tomorrowとは	32

---

## スペシャルメッセージ

### ジョン・V・ルース駐日米国大使



#### “全ての困難を乗り越えて国際的な次世代リーダーを 志す東北の若者たちに対し、アメリカは惜しみない支援を 送りたい”

東日本大震災は、日本人にかつてないほどの危機を突きつけました。しかし、このような自然災害は、大切な命や故郷を破壊することはできても、人々の心や精神までも破壊することはできません。東北の人々は逆境をはね返す力を示し、被災した方々がこの災害から必ず復活すると私は確信しています。

私は、このような困難に直面しながらも、夢と希望を追い続ける若者たちを目の当たりにし、勇気づけられてきました。彼らは、東北が復興するというだけでなく、東北復興を牽引し日本の未来を築く若いリーダーが現れるという確信をももたらします。

2011年3月11日、アメリカ人は、日本人の静かな意志の強さや回復力に真の感銘を受けました。全ての困難を乗り越えて国際的な次世代リーダーを志す東北の若者たちに対し、アメリカは惜しみない支援を送りたいと思います。

2011年3月11日以降の経験によって培われた世界観や原動力で、ビヨンドトゥモローの学生は日本の次世代のリーダーとなるエネルギーや創造性にあふれています。それは彼らのもつ責任であり、そして機会でもあります。私たちは、あらゆる可能な手段で彼らを支援していきたいと考えています。

## アドバイザーメッセージ

竹中 平蔵

慶應義塾大学  
グローバルセキュリティ研究所 所長  
総合政策学部 教授



### “ビヨンドトゥモローのプログラムに参加した東北地方の若い方々が、東北、日本、そして世界の未来を牽引する力となることを期待します”

東日本大震災という困難を乗り越え、広い世界で活躍することを目指すリーダー候補を被災地から輩出することを目的とするビヨンドトゥモローは、まさに今の社会が必要としている取り組みであると考えます。

私は、ビヨンドトゥモローのプログラムを通して、被災地の学生と対話する機会に恵まれました。震災によってもたらされた彼らの悲しみと衝撃は、想像を上回るもので、そのような困難に直面しても、夢と希望を失うことなく前に進もうとする姿に心を打たれると共に、若い世代が自らの声で生の体験を発信していくことの重要性を痛感しました。

東日本大震災がもたらした悲劇が繰り返されることのないよう、彼らはビヨンドトゥモローのプログラムにおいて提言と発信を行っています。これはまさに社会が求める実践的なリーダーシップの形であると考えます。

政治・経済・法律など多領域にまたがって複雑に絡み合った世界の諸問題を解決するには、強靱なリーダーシップが必要であることは言うまでもありません。想像を絶する困難を体験した被災地の若い世代が、逆境を乗り越えて広い舞台での活躍を目指すことは、そのような強い意志のあるリーダーシップを生むと信じます。

そのようなリーダー育成を目指すビヨンドトゥモローのプログラムに参加した東北地方の若い方々が、東北、日本、そして世界の未来を牽引する力となることを期待します。

## プログラム概要

3泊4日の合宿形式のプログラムでは、下記2つの問いについて、考えをまとめました。

1. 震災を経て、自分が新しい生活を通して実現したいこと
2. そのためのアクション・プラン「自分との約束」

上記2点をまとめるに当たり、本プログラムは以下の4つのアプローチを参加学生に提供しました。

### ディスカッション

東日本大震災という逆境を乗り越えて、リーダーとなるべく立ち上がろうとする志を共にする学生が、考えを共有し、団結するために、ディスカッションを実施。



### インタビュー

各界で活躍するリーダーにインタビューを行い、大学生の時期にどんな活動を行うべきか考える。



### メンターとの対話

ビヨンドトゥモローの発起人たちが『メンター：良き助言者』となり、学生の将来の夢実現に向けて対話を通じてサポート。



### 発信

とりまとめたプロジェクト企画と「自分との約束」をウェブサイトを通じて発信し、広く社会に知ってもらおう。  
<http://www.beyond-tomorrow.org/tohoku/>





## プログラム概要

## スケジュール

### 3月6日(火)

12:30-14:15

自己紹介・アイスブレイキング・昼食・ガイダンス・インタビュー準備  
インタビュー①(橋本大二郎、糸井重里)

15:00-17:00

ビストロ・ビヨンドトゥモロー(餃子をテーマに、創作料理コンテスト)  
班ごとに作戦会議・買い出し・調理・審査・片づけ

17:00-21:00

23:00  
就寝

### 3月7日(水)

7:00-8:00

朝食

9:00-11:25

ダイアログ・イン・ザ・ダーク

暗闇の中で、アクティビティを通しての信頼構築、震災経験の共有  
昼食

11:25-12:30

学生同士のディスカッション①「震災で失ったもの・得たもの」

13:30-15:30

学生同士のディスカッション②「東北代表として、果たすべき役割」

16:00-17:30

スプリング・フォーラムのための合唱練習、「門出の言葉」練習

17:30-18:30

メンター・ディナー(ビヨンドトゥモロー発起人との対話)

19:00-21:00

23:00  
就寝

### 3月8日(木)

7:00-8:00

朝食

9:00-11:00

インタビュー②(小林りん)

11:00-12:00

「自分との約束」作成

12:00-13:00

昼食

13:00-13:30

スプリング・フォーラムのための合唱練習、「門出の言葉」練習

13:30-14:30

「自分との約束」作成

14:30-16:30

「自分との約束」発表・撮影

17:30-18:30

スプリング・フォーラム リハーサル

18:30-21:00

スプリング・フォーラム

23:00  
就寝

### 3月9日(日)

7:00-8:00

朝食

10:00-12:00

企業プログラム

①武田薬品工業株式会社 ②株式会社ポイント ③三菱重工業株式会社

12:30-13:30

昼食

14:00  
解散



ビヨントゥモローは、東日本大震災という困難を経験した若者こそ、今後、世界や日本、そして東北復興のために行動するリーダーになる資質を有していると信じています。そのような若者を支援するため、奨学金給付を含む包括的なリーダーシッププログラムを提供しています。ビヨントゥモロー スプリングプログラム2012には、ビヨントゥモローの以下のプログラムに選抜された高校生が参加しました。



## スカラーシップ・プログラム

東日本大震災に被災しながらも、グローバルな視野を持ち国内外で活躍するリーダーになることを志し、2012年4月～2013年3月に新たに大学・短大・各種学校に進学予定の高校生を対象。返済不要・給付型奨学金提供を含む、包括的なリーダーシッププログラム。

## 高校留学プログラム／ジュニア・スカラーシップ・プログラム

東日本大震災を乗り越えて、グローバルな視野を持ち国内外で活躍するリーダーになることを志す者で、2012年9月の段階で、高等学校またはそれに準ずる学校に在籍、または卒業してから1年以上が経過していない者を対象。海外のボーディングスクール(全寮制学校)への留学機会を提供。返済不要・給付型奨学金支給を含む包括的なリーダーシッププログラム。



## プログラム概要

## 参加学生紹介

東日本大震災により被災し、困難な状況を経験しながらも、グローバルな視野を持ち国内外で活躍する志をもって2012年度に大学進学・高校留学をする学生が参加しました。彼らは、ビヨントゥモローのリーダーシッププログラム(スカラーシップ・プログラム、高校留学プログラム、ジュニア・スカラーシップ・プログラム)に選抜された、社会や世界に対し高い志を持った25名の学生です。

## 参加者一覧

氏名	学校	学年	進学/留学予定先(プログラム開催時点)
スカラーシップ・プログラム			
阿部菜穂	宮城県気仙沼高等学校	3	帝京平成大学健康メディカル学部
今井友理恵	岩手県立盛岡第一高等学校	3	慶應義塾大学法学部
遠藤見倫	宮城県立石巻北高等学校	3	石巻専修大学経営学部
小野寺栄	仙台育英学園高等学校	3	早稲田大学商学部
加藤英介	東陵高等学校	3	慶應義塾大学環境情報学部
上澤知洋	岩手県立盛岡第一高等学校	3	東北大学農学部
菊池翔太	岩手県立大船渡高等学校	3	東北学院大学人文社会科学部
菊地将大	岩手県立高田高等学校	3	筑波大学社会・国際学群
倉本知邑	岩手県立盛岡第一高等学校	3	明治薬科大学薬学部
穀田龍二	宮城県気仙沼高等学校	3	国立受験準備中
西城国琳	宮城県気仙沼高等学校	3	拓殖大学国際学部
齋藤光馬	宮城県白石高等学校	3	帝京大学外国語学部
佐々木瞳	宮城県気仙沼高等学校	3	Foothill College(米国・カリフォルニア州)
佐藤滉	岩手県立盛岡第一高等学校	3	高崎経済大学地域政策学部
菅野翼	福島県立工業高等学校	3	宇都宮大学国際学部
千葉真英	岩手県立大船渡高等学校	3	宇都宮大学工学部
福田順美	岩手県立高田高等学校	3	宮城大学看護学部
藤田真平	神奈川県立岸根高等学校	3	神奈川大学法学部
船越絵稚	岩手県立宮古高等学校	3	早稲田大学文科構想学部
マンスフィールドデビッド宥雅	宮城県立仙台第一高等学校	3	早稲田大学法学部
目黒妃呂美	福島県立相馬東高等学校	3	東北公益文科大学公益学部
高校留学プログラム/ジュニア・スカラーシップ・プログラム			
小川彩加	岩手県立大槌高等学校	3	Leelanau School(米国・ミシガン州)
菅原彩加	仙台育英学園高等学校	1	Leysin American School(スイス・レザン)
高橋奈々美	宮城県立宮城第一高等学校	1	フランスの高校
増子光希	福島県立郡山高等学校	1	スイスの高校に留学(スイス・チューリッヒ)



## スプリングプログラム ハイライト

### スプリングフォーラム

参加学生の新生活への門出を祝うため、スプリングプログラム3日目の夜、スプリングフォーラムを開催し、各界で活躍するリーダーの方々にご参加いただきました。新天地への旅立ちを前に自分たちの未来への想いをぶつける未来のリーダー候補。そしてその想いに真剣に応えるリーダーたち。海外からも多くのゲストが参加したスプリングフォーラムは、学生たちと応援するリーダーたちの心が一つになる場となりました。最後には参加学生25人全員で巣立ちの言葉や合唱を披露し、学生たちは自らの旅立ちを祝福しました。



未来への希望



世界への挑戦

生きる意味



リーダーたちの背中



期待と不安



信じた道



## スプリングプログラム ハイライト



**ジョン・V・ルース**  
駐日米国大使

“今後日本の復興に向けて、米国として何をすることが最も重要か。その答えは、ここにいる東北の素晴らしい若者や、東北地方の若者全てに“希望”を与えることです。なぜなら、東北、そして日本全国の人々の夢や希望は、今日ここにいる東北地方から来た学生たちにかかっているからです。”

**古川元久**  
国家戦略担当、内閣府特命担当大臣(経済財政政策、科学技術政策)、宇宙開発担当

“震災から一年を迎えようとしている今日、こうしてビヨンドトゥモローの25名の学生の皆さんの門出をお祝いできることを、本当に感慨深く思います。私は、皆さんの震災の経験が、これからの日本を、そして世界をリードするリーダーとしての大きな糧となると思います。私は、皆さんが辛い思いをしたからこそ、人の暖かさを知ったからこそ、ぜひリーダーとして活躍してもらいたいのです。これから日本だけでなく、世界に羽ばたいていただきたいと思います。”



**アイリーン・ヒラノ・イノウエ**  
米日カウンシル 会長

“私は今日皆さんの姿を見て、多くのアメリカの若者たちのことを思い起こさずにはいられません。中学生あるいは高校生である彼らは、洗車のアルバイトや手作りのカップケーキ販売、マラソンに参加するなどして資金を集め、日本の復興を助けたいと思った若者たちです。彼らは、支援する対象の人たちの顔は知りません。しかし、彼らの心のなかに強く、東北、日本の人々の存在があるのです。皆さんが将来、海を渡ってアメリカに来たその日は、彼らが海を越えて支援の手を差し伸べていた相手の顔を知るときなのです。”

**竹中平蔵**  
慶応義塾大学グローバルセキュリティ研究所 所長、総合政策学部 教授

“間もなく震災から一年を迎えます。復興は、まだ手についたばかり。私たちはこれから本当に大変なプロセスを歩まなくてはならないと覚悟しています。私はしかし、今までの歴史の経験に基づいて、2つのことだけをぜひ皆さまに申し上げたいと思います。一つは、このような逆境の度に私たち日本の社会は強くなってきたということ。そして第二に、その中心は、英雄は、常に若者であったということです。若者からヒーローが生まれます。危機を乗り越えて私たちの社会は強くなっていきます。そして、その中心は今日ここに来ているビヨンドトゥモローの学生だと思えます。”



## 門出の言葉

私たちのふるさとを東日本大震災が襲ったあの日から、一年が経とうとしています。

見慣れた風景、住み慣れた町を見ることは、もうできません。

波は、一瞬にして、多くのものを奪いました。

最愛の家族。

育った家。

遊ぶ約束をしていた友人。

見慣れた景色。

安心して暮らすことのできた日常。

実現にむかって走り続けた夢。

震災は、全てを奪っていきました。

当たり前の日常がどれだけ大切だったかを、失って初めて知ることになりました。

生き残ったことをうれしいと思えない日々もありました。

生きる希望を失いかけたこともありました。

けれど、震災は、私たちに多くのことを教えてくれました。

自分は一人ではないということ。

人はいつも多くの人に支えられ、つながっていること。

大変な状況にある人を思いやり、行動に移すことの重要性。

そして何よりも、この困難に立たされたから僕たち・私たちだからこそ、自分たちの手で、ふるさとに明るい未来を取り戻したいと、考えるようになりました。

震災から一年。今、私たちは、新たな一歩を踏み出そうとしています。

愛するふるさとを離れることには、不安もあります。

すっかり変わってしまった景色になっても、生まれ育ったふるさは、いつまでも、いつまでも、自分のふるさどです。

新たな土地で、多くを学び、一回りも二回りも大きくなって、必ず、故郷に誇れる人間になりたいと思います。

私たちが、東北の未来を築く旗手となるために、ここにいる全員で力をあわせて成長したいと思います。

必ず、大きな夢を、かなえます。

大変なことがあったから、今の自分がある。

そう思える日がくるまで、歩き続けます。

津波で、命を失った人たちの分まで、精一杯に生きることが、生き残った私たちの使命です。



## スプリングプログラム ハイライト

### ディスカッション

東日本大震災から一年。  
参加学生たちは、この一年間の自分、今の自分、そして未来の自分と  
真剣に向き合いました。

震災で失ったもの。  
震災で失ったものがあつたからこそ、得られたもの。  
その一つ一つを振り返り、共有し、今後自分にできることを議論しました。

そして、困難を経験した自分たちだからこそ社会に対して果たすことの  
出来る役割があると、一年前からは想像できないくらいに力強く、  
真っ直ぐに前を向く学生の姿がありました。

未来への熱いエネルギーが集結する、特別な空間が生まれました。

### 震災で失ったもの(コメント抜粋)

#### 故郷と当たり前の日常

震災を経験し、私は、失ってしまいネガティブに感じているもの、逆に失って良かったとポジティブに考えているものがある。震災によって、原発事故の影響で安全な暮らしと食が失われた。また、あたりまえの日常や平和への安心感、自分の故郷への自信がなくなった。対策遅れなどで、行政への信用というものも薄れていった。

しかし逆に、自分が被災したことにより、以前のような、他人に対する表面だけの見方が無くなり、本当に共感できるように変わった。また、楽観性が消え、物事を真剣に捉えるようになった。

菅野翼  
福島工業高等学校



#### 大好きな人と故郷

私が震災で失ったものは、お世話になった親戚の人々や、大好きな故郷の風景です。この2つが特に私に大きな喪失感を与えました。母と遊び、幼いころ慣れ親しんだ海岸には200体もの遺体が上がリ、かつての面影はもう有りません。私は自分のかつての思い出と、「被災地」という言葉を結び付けられずにいます。



高橋奈々美  
宮城県宮城第一高等学校

#### 震災で、「もう失うものはない」と思うくらいを失った

私は震災により、両親、祖父母、姉という大切な家族を失いました。6人家族だった私は1人になってしまいました。17年間暮らした家も失いました。思い出の物も何も残りませんでした。大好きなふるさとの景色も、もう見る事ができません。もう失うものはないと思っていました。



小川彩加  
岩手県立大槌高等学校

#### 沿岸部との物理的・心理的な近さ

私は、地震の瞬間を岩手県盛岡市で経験しました。様々な地域での異なる被災状況は内陸部まで十分には伝わって来ず、沿岸部地方との距離が広がってしまったように感じられました。それは交通の便が悪くなってしまった事などに起因する、移動にかかる所要時間の拡大の他に、私をはじめとして内陸部に住む県民の多くが、沿岸部で被災した県民にどう接するべきか分からず、結果、意図して距離を置いてしまったことが大きな要因として挙げられると考えます。しかし最近では、沿岸部への積極的な訪問や、現地の人々からお話を伺うなどして、開いてしまった距離を縮め、より被災地に寄り添った形での復興支援に協力したいという思いで行動しています。

佐藤滉  
岩手県立盛岡第一高等学校





## ディスカッションしたテーマ

1. 震災で失ったもの・得たもの
2. 東北代表として果たすべき役割 (21ページ「自分との約束で紹介」)

## 震災で得たもの(コメント抜粋)

### 多くの人との出会い

震災後、様々な機会に参加し、私は行動力、物事への関心・意欲が高まったと感じます。またたくさんの出会いも得ました。出会った方々は、1人で行き詰まっていた私に、多くのヒントをくれました。特に、進路のことや、これから先生きていくためのことについては、たくさん吸収することがありました。投げやりになり、死んでしまいたいこともありました。母のくれた命を大切にしたいとみなさんのおかげで思うようになりました。

阿部菜穂  
宮城県気仙沼高等学校



### 真に弱者を理解するとは

自分が、被災地の住民という、世界から見れば弱い立場の人間に見られるようになったことで感じるようになった気持ちがある。それは自分たちを支援してくれる日本、世界の人々に同情してもらうのではなく、私達の状況を真に理解して欲しいということだ。それは、被災地に足を運んだり、その地域の人々と会話することで得られるものだ。そして、この気持ちは発展途上で貧困にあえいでいる人々と共通するということがあると思う。

上澤知洋  
岩手県立盛岡第一高等学校



### 自分の役割

今回の震災では多くの人々の命が失われ、改めて命のはかなさを思い知らされました。しかし同時に、いつかは死ぬ自分が永久に続くこの世界を少しでもいい方向へ導きたい、それが自分の存在意義なのではないかと考えるようになりました。

マンズフィールドデビッド宥雅  
宮城県仙台第一高等学校



### 社会の一員としての自覚

震災後、私は地元の災害FMIにボランティアスタッフとして参加しました。そこで私は、宮古市のために奔走するスタッフの方々と出会います。彼らと一緒に活動していくうちに、私の心には、自分がこれからの復興を担っていく一員である、地域社会の一員であるという自覚が芽生えました。そしてそれが「自分がどうにかしていくのだ」という積極性を生み出し、様々なことを自分から行動に移していけるようになっていきました。震災を経験して、私は社会の一員としての自覚を得たと考えています。

船越絵雅  
岩手県立宮古高等学校



### 自分の進むべき道

私が震災で見つけたものは、失ったものよりも多くあります。それは、人のあたたかさであったり、生きていることへの感謝の気持ちであったり、家族の大切さであったり、というものでした。そして一番大きいものは、震災を経験し自分に向き合う時間がうまれたことで、自分の進むべき道、将来への夢を手に入れることができた、というものです。

西城国琳  
宮城県気仙沼高等学校



## スプリングプログラム ハイライト

### リーダーへのインタビュー

これから始まる、大学や留学先での新たな生活で挑む「自分との約束」作成のために、参加学生たちは、各界で活躍するリーダーにインタビューを実施しました。彼らは、学生時代に何を考え、何に情熱を注いでいたのか、そしてそれが「今」とどう繋がっているのか。学生たちは、リーダーたちの「軌跡」と、自分たちの「これから」を重ねあわせ、未来へのヒントを得ました。

### リーダーから学生に、珠玉のメッセージ



#### 糸井 重里

コピーライター

“学生時代は答えがあるものがあり、また、その答えを知っている人がいる。でも社会人になって仕事をしてみないと分からないことがある。

人生において、できないことの方が多い。全部なんてできないんだから、サボってやり残したことも財産。ただし英語は勉強しておけよ”

#### 小林 りん

公益財団法人 インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢設立準備財団 代表理事

“自分の苦手や欠点を自分で理解することが大事。

失敗もあるけど、成功するまで続けること。最終的には情熱が人を動かす。

小さくてもいいから、まずは始めてみること”



#### 橋本 大二郎

早稲田大学大学院客員教授 / 慶應義塾大学特別招聘教授 / 前高知県知事

“何か決断するとき、多角的に考える。色々な人から話を聞く。

でも最後に決断するのは自分自身。

人はどんなに幸せに見えても、必ず何かの問題を抱えている。だからむやみに人を羨ましがったり悲観することに意味はない”



## スプリングプログラム ハイライト

### 企業プログラム

グローバル化する世界で「企業が果たす役割とは何か」を知るために、学生たちは日本発のグローバルカンパニーを訪問しました。各企業において、事業の内容やビジネスの在り方について、インタラクティブなプログラムを通して学び、企業活動の最前線に触れる機会となりました。



#### “企業として「何をしたか」ではなく、「どのように社会に貢献できたか」を追求”

##### － 武田薬品工業株式会社

日本発の世界的製薬会社である武田薬品工業会社では、企業の社会的責任(CSR)についての考え方や、その考え方に基づいたビジネス展開についての話を聞くことができました。事業で「何をしたか」だけでなく、その事業によって「社会にどんなインパクトが残せたか」「受益者にどのような変化をもたらすことができたか」ということをより重視し、事業に取り組むという、企業活動の在り方の根本について学ぶことが出来たプログラムとなりました。



#### “ファッションビジネス最前線”

##### － 株式会社ポイント

「ローリーズファーム」や「グローバルワーク」などのファッションブランドを国内外で展開する株式会社ポイントからは、同社が展開する事業についてのお話や、ファッションビジネスの裏話を聞くことができました。「ブランド力」のつけ方、多サイズ展開と利益・効率を両立することの難しさ、服のデザインをする上での苦労話など、普段の生活では分からない話は目からうろこ。また、発売前の服が収納されている一室に入らせてもらうなど、まさにファッションビジネスの“最前線”に触れ、普段の生活に新たな視点を与えられたプログラムとなりました。



#### “企業と若者で「本当に必要な」震災復興支援を考える”

##### － 三菱重工業株式会社

宇宙ロケットから発電設備、産業機器、家庭用電化製品まで、多岐に渡る製品分野においてビジネスを展開する三菱重工業株式会社。「ものづくり」で時代をリードしてきた同社では、その特色を活かした復興支援に関する話を聞くことができました。東北の被災地が真に求める支援とは何か、そして、企業が果たしうる役割とは何か。学生と同社社員によるインタラクティブなディスカッションが生まれたプログラムとなりました。



## 自分との約束

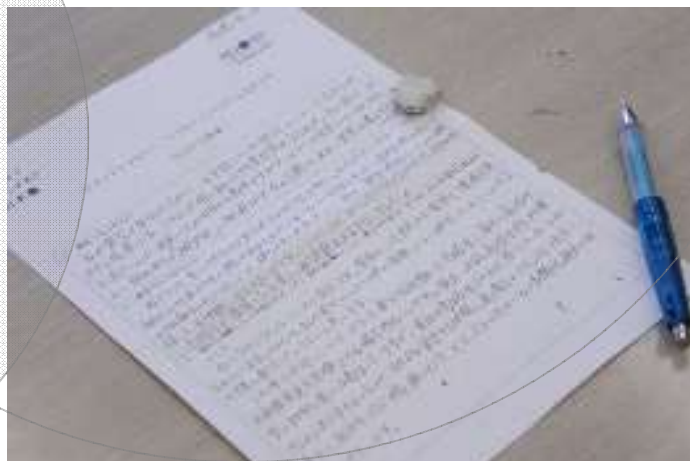


震災で失ったものは何か。  
震災で得たものは何か。  
そして、震災を経験した自分たち“だからこそ”できることは何か。

震災から約1年を経て、  
25名の参加学生は  
仲間と議論し、  
各界のリーダー達と議論し、  
自分自身に問い続けました。

東北復興への貢献。  
日本への貢献。  
世界への貢献。

25名はその目標に向かうべく、  
それぞれが新生活で果たす『自分との約束』を作成しました。



## 自分との約束

### 「自分との約束」作成

プログラム中のディスカッション、各界で活躍するリーダーへのインタビュー、メンターとの対話を踏まえ、それぞれの学生が新生活で達成する「自分との約束」を作成しました。震災から一年を経て、それぞれの学生は、未来の“リーダー”となるための第一歩を踏み出しました。

#### 『共感力あるアナウンサーになる』

私は小学校の頃から、アナウンサーになりたいという夢を持ち続けています。もともと、若者の政治離れを改善するために、分かりやすく、若い人でも興味を持てるような伝え方のできるアナウンサーになりたいと考えていました。

震災を経て、マスメディアの影響力の大きさを改めて感じ、視聴者に寄り添った報道をしたいという思いがさらに強まりました。また、被災をしていない地域の日本人ましてや海外の人などは、報道で得られる情報が殆どであり、良くも悪くもイメージを植えつけてしまいます。そのことが風評被害にもつながっており、震災を経験したからこそその問題点を見つけることができました。そして、最近問題視されている“震災の風化”を食い止めるためにも、マスメディアの役割は大きいと思います。震災が一時的なブームにならないよう、継続的に人々の心に残していきたいです。



#### 今井友理恵

岩手県立盛岡第一高等学校を卒業、慶應義塾大学法学部に進学予定。

震災を通して、この未曾有の大惨事を経験したからこそ得られた、人に対する思いやりの心や共感力を持って、人々に元気を与えられる、視聴者に寄り添ったアナウンサーになりたいと強く思うようになった。



#### 『アメリカの大学で途上国支援の方法を学びたい』

震災前までは、ただ単に支援をする方の視点から途上国の人々の支援をしたいと思っていました。しかし、今回自ら震災を経験して様々な問題が見えてきました。例えば、支援される側のニーズを支援する側が良く理解していなかったり、という事です。支援していただくことはとても有難いことなのですが、支援する方はしっかりとニーズを把握するということが大切だと思いました。

そこで私は、自ら積極的に現地に足を運び、現地の方々がどのような生活を送り、何を必要としているのか自らの目で見て来たいと思います。一口に途上国の支援をしたいと言っても、その支援の方法は多種多様にわたります。今はまだはっきりと方向性が見えていないので、大学に通う中で自分の興味のある分野を見極めていきたいと思います。

私はアメリカの大学に進学予定です。アメリカの大学には世界中から留学生が通っています。そのような国際的環境で学ぶことで広い視野を見につけ、多くの人達に正しい日本の現状を発信していきたいと思います。

#### 佐々木瞳

宮城県気仙沼高等学校を卒業、Foothill Collegeに進学予定。

気仙沼で被災し、家を失う。同じ人間でありながら、生まれた場所によって人生が大きく変わってしまうという地球上の不公平に衝撃を受けた中学時代の経験から、途上国の支援など、世界のために働くことが夢。

### 『正しい情報の発信で風評被害を防ぎたい』

私は風評被害の緩和こそが東北復興の鍵となると思っています。福島ということだけで偏見や差別をされたことを、身をもって体験したことで、多くの人は情報を誤解して判断していることが多いと感じました。だから私は、風評被害の緩和のために少しでも多くの人々に正しい情報を発信する「情報と情報の架け橋」となりたいと思っています。そして、スイス留学の際には高校生外交官として世界中の人々に少しでも多くの福島の情報を発信していきたいと思っています。



#### 増子光希

福島県立郡山高等学校1年、7月よりスイスの高校に1年間留学予定。  
福島県郡山市で震災を体験。その後も放射能問題による福島に対する風評被害や差別を実際に体験し、全国の人々に対して福島の状況を発信していきたいと考えている。今後、東北が復興するためには、多くの人が東北を理解し、支えてくれることが重要であると考え、9月からスイスに留学予定。

### 『人とのつながりに助けられた自分だからこそ』

私は、この1年間のうちに様々な人に助けられました。Twitterやブログで知り合った人。顔も本名も、言っていることが事実かどうか分からないのに、事実として受け取ってくれる人たちがたくさんいました。

その人達に私がどう恩返しできるかを、今も悩んでいます。手探りの状態の中で私に一番できることは「今」起きた事実を「過去」にしない事だと考えました。少しずつ、自身の体験や聞いた話、ニュースになったことなどを書いてきました。写真を撮ることのきっかけを与えてくれたのは父親で、だからこそ、できるだけ写真付きで発信していこうと思いました。

震災後の約1年間は、主に「発信」をメインに私なりに動いてきました。これからの1年間は、私が成長するために、目標を、大学やビヨンドトゥモローを通じて見つけていきたいです。「成長」には、お世話になった人たちへの感謝という意味も込めています。明確なものはまだ見つけられていませんが、人との想いを共有して、その人の夢を応援できる人になりたいです。

私が絶望的だった時、助けてくれたのは人とのつながりでした。ですから、私が多くの人と関わり、一人でも役に立てられるように、様々なことにチャレンジして、また1年後、成長できた自分に会いたいです。



#### 遠藤見倫

宮城県石巻北高等学校を卒業、石巻専修大学経営学部に進学予定  
震災で父と家を亡くし、絶望の淵におかれる思いをしながらも、震災のことを多くの人に知ってもらいたいと、写真部の部長として活動した経験を活かして、被災地における津波の爪痕を写真に残し、メディアを通して発信したという経験を持つ。

### 『明日が不確かだからこそ、夢に邁進する』

私は震災により、多くのものを失ったけれど、たくさんの出会いがあり、つながりが出来、チャンスももらい、多くのものを得ました。そして、何気ない日常がどれほど幸せだったかを思い知らされました。

私は生かされているのだと知りました。明日がかならず来る保証がある人は誰一人いません。悔いのない人生を送りたいと強く思うようになりました。これからは、これからの事を考えなくてはなりません。

私には夢があります。それは、世界で活躍するファッションデザイナーになることです。そのためにも、視野を広げるため、世界で活躍するため、英語を身につけるために留学をしたいです。せつかく生かされているのだから、いろいろな世界を見て、聞いて、感じて、知りたいと思っています。

そして留学前にまず日本を知ることが重要ではないかと考えます。まず、第一の目標として私は富士山に登ります。そして、さらに挑戦していきたいです。夢は大きく持ち続け、これからも自分の可能性を信じます。



#### 小川彩加

岩手県立大槌高等学校卒業、9月より海外のボーディングスクールへ留学予定。  
津波によって両親、祖父母、姉を亡くし、現在、親戚と仮設住宅に暮らす。家族を失いながらも自分だけが助かったからには、悔いのない人生を送りたいと、かねてから関心のあった海外留学を決意。震災後の夏休みにはオーストラリアで短期ホームステイを体験した。



### 『相手に寄り添った途上国支援を農業のアプローチで』

私は、震災を通して「自分の人生」「自分自身のあり方」について考えてきた。そこで私は、発展途上国の人々の気持ちに寄り添いながら、農業の視点から食糧支援を行なっていきたい。

具体的には3つのステップで実施していきたいと考えている。まず、先進国で剰余分の食料を発展途上国に届けるルートを作っていく。これで、現時点で食料が全くない、農作業を行える状態にない地域にもある程度の食料が確保できる。次に行うのが農地開発である。自国の食料を自力で生産できるように、先進国の技術を提供していく。そして、最終的には外国に輸出できるほどの農作物を生産し、それを原料に加工品を作って輸出する体系を作り出したい。

そのために、今できることは何か。大学で農業の基礎から学んでいくと共に、現時点で行われている農業支援に関する事業を、専門家の方にお話を聞きながら、調べていきたい。また、「実際に現地に足を運んで理解する」という理念のもと、発展途上国に足を運び実情を知り、現地の生の声を聞いて新たな支援策づくりに生かしていきたい。そして、様々な発展途上国支援のアプローチの中で、自分の能力を最大限発揮できる場はどこか、積極的に公的機関や企業を訪問することで見つけていきたい。

#### 上澤知洋

岩手県立盛岡第一高等学校を卒業、東北大学農学部に進学予定。  
「農業」をキーワードに日本国内のみならず、世界における貧困問題を解決できるような支援のあり方を模索していきたいと、農学部へ進学を決意。





### 『気仙沼に魅力的な企業を立ち上げる』

震災による普通ではありえない困難を乗り越えた自分だからこそ、私は被災地を活性化させるような会社を作れると思います。震災後の生活で培われた根性は、様々な試練を乗り越えられると思います。目標は、若者の地元離れを食い止めるような会社の設立です。具体的には、漁師さんが苦手としている、捕ってきた魚を売るということをする会社です。この目標を実現させるためにも、この1年、私はビョンドトゥモローのプログラムに参加して経営者の方々からお話を聞いたりすると共に、海外の人とルームシェアをすることによって、実践的な英語を身につけたいと思います。また、夏休みにアルバイトをして、職業体験をしたいと思います。

#### 穀田龍二

宮城県気仙沼高等学校を卒業、現在国公立受験準備中。

震災以前から深刻だった若者の地元離れという問題を、震災復興という枠組みの中で解決していきたいと考えている。

### 『途上国で教育支援を』

私の住む町はチリ地震津波を経験し、防災教育にも力を入れています。そのおかげで、私は、地震後に素早く避難するという、正しい判断をすることが出来ました。そして、避難所でボランティアとして働いている合間に、発電機の灯の下で勉強したことが、自分に教育の大切さを改めて気づかせることとなりました。

こういった体験から、将来自分は、アフリカに教育を普及させたいと思うようになりました。自分が教育を行うことによって子供たちの夢を支えてあげたいと思います。そのため、この1年間は、語学はもちろんのこと、アフリカに行って実際に現場を見て、国際関係学や国際協力学を頑張って勉強していきます。



#### 西城国琳

宮城県気仙沼高等学校を卒業、拓殖大学国際学部に進学予定

中国・大連生まれ。中学校1年生の時に、母の再婚により来日。以来、南三陸町に住む。震災後、自分の故郷は南三陸町にあると確信し、日本国籍を取得。



### 『東北と世界をつなぐ橋渡しになりたい』

この1年でやりたい事は、まずは震災を経験した高校生と海外の高校生が直接意見を交換できる場を作ることです。現在、外国の高校生から震災に対する関心は高まっていますが、東北の高校生がそれに混ざっていることは殆どありません、なので、日本から留学する仲間と連携をとってネットワークを作り、東北と海外をつなぐ橋渡しとして、ビョンドトゥモローの活動を海外に伝えていきたいです。自分が与えられた環境を、最大限に活かしていきたいです。

#### 高橋奈々美

宮城県宮城第一高等学校1年、9月よりフランスの高校に1年間留学予定。

震災後、絶望で明日を生きる気力すらなくなった日々もあったが、震災はそれまでに気づけなかった大切なことも教えてくれたと感じている。震災後、被災地代表としてベラルーシ共和国ミンスク市で市長や現地高校生に震災について伝えるという活動も行った。

## スプリングプログラム ハイライト

### メンター一覧

様々な分野で活躍するビヨントゥモローの発起人たちが、『メンター：良き助言者』として参加し、学生との対話に臨みました。参加学生は思い思いの意見や質問をメンターにぶつけ、それぞれの将来の夢に向かっていくための熱いディスカッションが生まれました。

浅尾 慶一郎  
衆議院議員



岩瀬 大輔  
ライフネット生命保険  
代表取締役副社長



江崎 滋恒  
アンダーソン・毛利・友常  
法律事務所  
弁護士



大塚 拓  
前衆議院議員  
政策研究大学院大学  
客員研究員



岡島 悦子  
株式会社プロノバ  
代表取締役社長



小林 正忠  
楽天株式会社  
取締役常務執行役員



近藤 正晃ジェームス  
Twitter日本代表  
一橋大学客員教授



齋藤 ウィリアム 浩幸  
Intecur, K.K.  
創業者兼最高経営責任者



佐藤 輝英  
株式会社ネットプライズドットコム  
代表取締役社長 兼 グループ  
CEO



高島 宏平  
オインックス株式会社  
代表取締役社長



茅野 みつる  
カリフォルニア州弁護士



土井 香苗  
弁護士  
ヒューマン・ライツ・ウォッチ  
日本代表



**堂前 宣夫**  
株式会社ファーストリテイリング  
上席執行役員



**西山 浩平**  
エレファントデザイン  
代表取締役会長



**藤沢 久美**  
シンクタンク・ソフィアバンク副代表  
社会起業家フォーラム副代表



**船橋 力**  
株式会社ウィル・シード  
代表取締役社長



**堀 主知 ロバート**  
株式会社サイバードホールディングス  
代表取締役社長兼グループCEO



**牧原 秀樹**  
前衆議院議員  
弁護士・ニューヨーク州弁護士  
政策研究大学院大学客員研究員



**松古 樹美**  
野村ホールディングス  
コーポレート・シティズンシップ  
推進室長  
マネージングディレクター



**松崎 みさ**  
株式会社アシモード  
代表取締役



**松田 公太**  
参議院議員



**宮城 治男**  
NPO法人ETIC. 代表理事



**山崎 直子**  
宇宙飛行士





## 運営チーム

### チームリーダー

本プログラムでは、株式会社ポイントの社員の方々にご協力いただきました。

木村 さやか  
株式会社ポイント



寺嶋 真理  
株式会社ポイント



真弓 梓  
株式会社ポイント



千葉 貴裕  
株式会社ポイント



### 運営スタッフ

三好 大助



山岡 幸司



石原 昌尚



木下 みらい



### 事務局



坪内 南  
ビヨントゥモロー 理事・事務局長

東京都出身。中学校3年より親元を離れカナダへ単身留学。カナダの全寮制インターナショナルスクール卒業。慶応義塾大学総合政策学部卒業。マサチューセッツ工科大学都市計画修士課程修了。マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て、アフガニスタンで戦後復興支援の活動をしたり、スイスの世界経済フォーラム(ダボス会議)で仕事をして、今年の6月まで中東・バーレーンの経済開発委員会で働いていた。今はビヨントゥモローで東北の若い学生さんたちと交流することが元気の源。好きな言葉は「意志あるところに道あり」。



阪本 麻友  
ビヨントゥモロー プログラムコーディネーター

奈良県出身。6歳から15年間フィギュアスケートに専念。大阪府立女子大学理学部応用数学科卒業。22歳ロート製薬に入社、4年間情報システム部に勤務。25歳よりクラシックバレエを始める。東日本大震災のニュースを見て何かしなければと個人で現地ボランティアに参加する中で、将来への不安をかかえる状況に心を痛める。現在は、夢を持つ子どもたちの背中を押してあげたいとビヨントゥモローに参画。

## 協力団体

多くの団体・企業の皆さまからのご支援・ご協力により、無事プログラムを実施することができました。厚く御礼申し上げます。

### 支援団体

本プログラムは、東日本大震災復興支援財団の助成によって運営されています。ビヨンドトゥモローの事業は、多くの方々からのご支援によって支えられています。皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

### ビヨンドトゥモロー ストラテジック・パートナー

ビヨンドトゥモローの活動に1000万円相当以上のご寄付をいただいた企業・団体

- ジャパン・ソサエティー
- 武田薬品工業株式会社
- 米日カウンスル
- 三菱重工業株式会社
- ロート製薬株式会社

### ビヨンドトゥモロー スカラーシップ・パートナー

奨学生枠の提供をいただいた教育機関・教育団体

- Leelanau School (米国・ミシガン州)
- Leysin American School (スイス・ヴォー州)
- St Michael's College (英国・ウスターシャー州)
- St. George's School (スイス・ヴォー州)

### ビヨンドトゥモロー プロジェクト・パートナー

ビヨンドトゥモローの活動に100万円相当以上のご寄付をいただいた企業・団体

- 株式会社ポイント
- 公益財団法人 東日本大震災復興支援財団
- 住友化学株式会社
- 日本GE株式会社 GEキャピタル
- ポストン東北緊急支援ファンド

### ビヨンドトゥモロー スカラーシップ・パトロン

ビヨンドトゥモロー・スカラーシップ・プログラムに奨学金枠をご寄付いただいた個人の方々

- 小林 正忠様
- 本庄 竜介様
- ロバート・アラン・フェルドマン様

### ビヨンドトゥモロー プロボノ・パートナー

ビヨンドトゥモローの活動に商品・サービスの形でご寄付・ご協力をいただいた企業・団体

- 株式会社ガリバーインターナショナル
- グランド ハイアット 東京
- 全日本空輸株式会社
- フェデックス キンコーズ・ジャパン株式会社
- 六本木ヒルズクラブ

### その他ご寄付をいただいた企業の皆さま

- 株式会社ウェルネス・アリーナ
- 野村證券 人事部 ダイバーシティ&インクルージョン 社員ネットワーク
- KIBOW

この他にも、多くの方々にご支援・ご協力をいただいております。深く御礼申し上げます。

メディア掲載  
映像掲載

TV

NHK総合「首都圏ネットワーク」(3月19日)

YouTube

Youtube BEYOND Tomorrow TV

<http://www.youtube.com/user/BeyondTomorrowTV?feature=watch>

スプリングプログラムや、これまでのプログラムの様子をご覧いただけます。

ウェブサイト

世界に届け東北の声 一人ひとりのストーリー

<http://www.beyond-tomorrow.org/tohoku/>







## BEYOND Tomorrow とは



### 概要

一般財団法人 教育支援グローバル基金は、政治・行政・企業・NGO・メディアなど多方面にて活躍するリーダーたちにより設立された財団法人です。「ビヨンドトゥモロー」は、東日本大震災で被災した若者がグローバルに活躍するリーダーへと成長することを支援することを目的とした事業として、包括的なリーダーシップ支援事業を実施しています。2011年9月には、「夏季ダボス会議ジュニアリーダーズプログラム」、10月には「東北未来リーダーズサミット」を開催、被災地からリーダー候補を輩出するための取り組みを行っています。また、大学進学者を対象として奨学金及びリーダーシップ教育を提供する「ビヨンドトゥモロー・スカラーシップ・プログラム」や、高校生を対象として海外のボーディングスクールへの留学機会を提供する「高校留学プログラム」を運営しています。

### 特徴

志ある学生の夢の実現を応援し、金銭的な支援だけでなく対話を通して大志の実現を助け、グローバルな視野を持つ人材を育成します。また、今回の逆境を乗り越えて、自らがより主体的に社会に関わることができるような機会を提供することにより、他者に対する共感力をもつ人材の育成を目指します。

### 内容

- i. 進学支援 - 大学進学に際し、全奨学金(学資・生活費含む)を提供(返済不要)
- ii. メンタリングサポート - 各界で活躍する発起人自らが「メンター」となり、参加者が困難を乗り越え、将来の夢を持ち、それに必要なアクションに向かうまで、対話を通してサポートを提供
- iii. 企業プログラム - インターンシップや対話イベントなどを通し、支援企業とプログラム参加者が直に接する機会を提供
- iv. アンバサダープログラム - 対象学生自らが、被災・復興の伝道師として国内外に情報発信し、自然災害の恐怖や求められる施策について世界の認識を高めるための場を構築

## 組織構成

### アドバイザー

竹中 平蔵 慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所 所長  
総合政策学部 教授

### 代表理事

近藤 正晃ジェームス Twitter日本代表、一橋大学客員教授  
高島 宏平 オイシックス 代表取締役社長  
藤沢 久美 シンクタンク・ソフィアバンク 副代表、社会起業家フォーラム 副代表  
船橋 力 ウィル・シード 代表取締役社長

### 理事

浅尾 慶一郎 衆議院議員  
岡島 悦子 プロノバ 代表取締役CEO  
小林 正忠 楽天 取締役常務執行役員  
佐藤 輝英 ネットプライズドットコム 代表取締役社長 兼 グループCEO  
堀 主知ロバート 株式会社サイバード 代表取締役社長 兼 グループCEO  
牧原 秀樹 前衆議院議員 弁護士・ニューヨーク州弁護士  
政策研究大学院大学客員研究員  
松崎 みさ 株式会社アシモード 代表取締役社長、アガスタ ファウンダー  
松田 公太 参議院議員、タリーズコーヒージャパン創業者

### 監事

江崎 滋恒 アンダーソン・毛利・友常法律事務所 弁護士

### 評議員

茅野 みつる カリフォルニア州弁護士  
土井 香苗 ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表、弁護士  
宮城 治男 NPO法人ETIC. 代表理事

### 理事・ 事務局長

坪内 南 一般財団法人教育支援グローバル基金事務局長

### 賛同者

岩瀬 大輔 ライフネット生命保険 代表取締役副社長  
大塚 拓 前衆議院議員、政策研究大学院大学客員研究員  
齋藤 ウィリアム浩幸 インテカー Intecur, K.K. 創業者兼最高経営責任者  
堂前 宣夫 株式会社ファーストリテイリング 上席執行役員  
西山 浩平 エレファントデザイン株式会社 代表取締役会長  
松古 樹美 野村ホールディングス コーポレート・シティズンシップ推進室長、  
マネージングディレクター、ニューヨーク州弁護士  
山崎 直子 宇宙飛行士

写真提供協力:遠藤見倫  
撮影協力:神戸芸術工科大学 infoGuild  
デザイン・レイアウト協力:中河綾子



BEYOND Tomorrow

一般財団法人 教育支援グローバル基金

<http://www.beyond-tomorrow.org/>

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-5-7 ETIC. 内

[info@beyond-tomorrow.org](mailto:info@beyond-tomorrow.org)